

## 資料 3

【発達障害児者地域生活支援モデル事業】  
「基本プラットフォームを導入した幼児期ペ  
アレント・トレーニングの実施・検証」  
及び「強度行動障がい事例へのコンサルテー  
ションの効果・検証」について

# 「基本プラットホーム」を導入した 幼児期ペアレント・トレーニングの実施・検証

## 現状の取組

- ・ペアレント・トレーニング(以下、PT)については、平成26年度から開始し、幼児期、学齢期(低学年・高学年)、思春期と年代別にグループ編成を行うことで、各年代での環境やニーズを踏まえて実施している。
- ・実施にあたっては、幼児期はアスペルger式PT、学齢期及び思春期は奈良式PTに基づき、児童の特性や行動を理解し、親自身が児童にとっての「最良の療育者」となり自尊心を高めることができるよう、行動療法に基づく効果的な対応方法を学ぶ講座を開催する。
- ・実施者(スタッフ)については、外部の専門家にファシリテーターを依頼するだけでなく、エルムおおさかの職員にはPT養成研修を受講のうえ、各年代の連続講座においてサブリーダーとして実践的に関わることで、ファシリテーターを担う人材養成にも取り組んでいる。

## 事業方針

- ・厚生労働省障害者総合福祉推進事業の成果物である「ペアレント・トレーニング実践ガイドブック」及び「ペアレント・トレーニング支援者用マニュアル」(いずれも一般社団法人日本発達障害ネットワークJDDnet作成)を踏まえて実施する。
- ・上記成果物に記載する「PT基本プラットホーム」を幼児版プログラムに応用し、新人・経験者各1名がペアとなり、ファシリテーターとして幼児期グループでの連続講座の進行を担い、PT受講者への事前事後アンケートにより「PT基本プラットホーム」の効果検証を行う。
- ・また、新人・経験者ファシリテーターへのアンケート・聴取により講座進行及び人材養成の手法の効果・検証を行いフィードバックすることで、地域におけるPT実施の普及を図る。
- ・幼児・学齢期(低学年・高学年)・思春期の年代別グループへの応用内容についても検討する。

## 具体的取組

- ①PT受講前と受講後支援における子育てに対する自信・理解度・ストレス度及び新人ファシリテーターのPT実施者としての自信度や経験者ファシリテーターの新人養成の自信度を検証するためのアンケートを作成、および基本プラットホームに基づく幼児版プログラムを作成
- ②新人ファシリテーターが担当する幼児期2グループにおいて、事前面談と計6回の連続講座(講義・グループワーク・ロールプレイ)を実施
- ③受講者に対してはアンケート調査、新人・経験者ファシリテーターに対してはアンケート調査と聴取を実施
- ④外部講師と経験者のファシリテーターに対して、年代別グループへの応用内容に関する聴取を実施
- ⑤調査結果のまとめ・報告

## スケジュール

R4年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5年1月	2月	3月
①アンケート作成・幼児版プログラム作成										
			②PT幼児期2グループ講座							
		③アンケート調査・聴取								
			④年代別グループ検討							
							⑤調査結果まとめ・報告			

